

国語科通信 その14

令和2年5月14日

●英語科通信 品詞転換 にヒントを得て

～「る」をつけたがる日本語流行語～

①5月11日配信の英語科通信「コロナウィルスがもたらした『ことばの変化』」は、タイムリーで興味深い内容でしたが、日本語にも同様の傾向があります。

②「ハモる」「ダブる」「サボる」「ミスる」「メモる」などは市民権を得たことばですが、その由来は、外来語(名詞)に「る」がついたものです。

③「神ってる」は外来語についたものではありませんが、「名詞+る」ことばですね。「タピる」は昨夏によく聞きましたが、「ググる」、「バズる」、「ディスる」、「バグる」、「パクる」…などなど…一定の世代以外はついていけないたくさんの「～る」言葉が生まれているようです。ネット関連の語が多いことに気が付きます。軽々とした印象の一方、攻撃的でマイナーな言葉が多い傾向にあるようですが、気のせいでしょうか。ネット世界の「狭さ」とその狭さがもたらした「不寛容性」「恐怖」がこれらの流行語の背景にありそう

です。

④英語科通信にもありましたが、このような「動詞化」は「何かの流行によってよく起きる現象」のようです。前述の言葉がそうであるように、多くは若者がその担い手の中心です。

⑤「る」付きことばではありませんが、ここ2、3年、皆さんの使う言葉で、なかなか用法がわからないことばがあります。「ワンチャン」です。今一つ使い方がわからないのですが、どうやら、皆さんは「ワンチャン」を連発してぎりぎりの可能性にかけたりする生活をしているのかなと思います。それほど忙しいのか。いや、そうではなく、早め早めにはやらないでぎりぎりまで放置しておき、最後あわよくば何とか滑り込もうと偶然に期待するのか…などと、流行のことばから感じるものがあります。

⑥「ワンチャン」を口癖にする限り、ぎりぎり生活から抜け出せないのか。それとも、ぎりぎり生活が自分たちを苦しめるために、「ワンチャン」と口にせざるを得ないのか。

⑥前前号の最後に、ことばが先か、心のありようが先かということを話題にしましたが、こういうことばもあります。

思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから。

言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから。

行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから。

習慣に気をつけなさい、それはいつか性格になるから。

性格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから。

～ マザー テレサ～

⑦日々「口」に入れるものと、日々「口」から出すもの、そのどちらもが私たちを形作っていることは確かなことです。